

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

9月1日 (No.51・ゲリラ雨は怖いよ号)

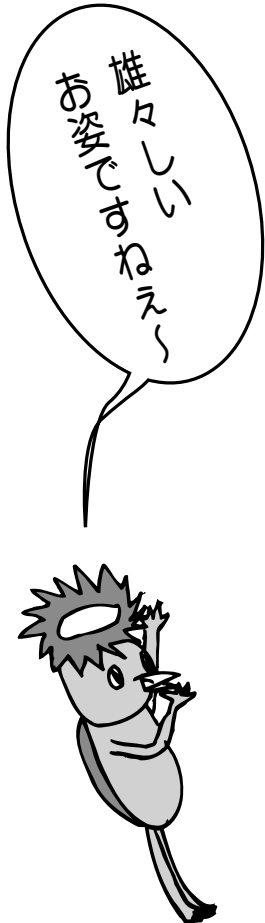
2008
*
9月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：小島敏文

勝手にレッドデータ of 志木 (37)

半 鐘

半鐘は、火の見櫓に取り付け、火災発生時などに鳴らし、消防団の招集や近隣に危険を知らせるものです。現在では、防災無線に役目を譲っており、志木市で現存するものは、久保自警消防隊が活動する幸町3丁目に残るのみです。火の見櫓の修繕の際に、撤去される運命でしたが、「何か哀しい。地域のシンボル代わりにならない？」ということで残されました。

(小島敏文)

身近な川の一斉調査 2008

08年6月8日(日) 9:00~12:30

主催：新河岸川水系水環境連絡会
全国水環境マップ実行委員会
NPO 法人エコシティ志木

協力参加：志木市立宗岡中学校科学部

参加者：13名

新河岸川水系では毎年約50団体で約250カ所の水を調査しています。当会が志木で調査を開始してから13年目、全国調査としては5年目になりました。例年のように宗岡中学校科学部と共に、志木市内8カ所の水を採取し、宗岡中学校理科室で測定しました。

主要な測定結果は下記の表の通りで、概ね例年と似た傾向でした。

■ 主な測定項目は以下の通りですが、この他に**気温**、**水温**、**亜硝酸性窒素 (NO₂-N)**、**アンモニア性窒素 (NH₄-N)** も測定しています。

新河岸川水系身近な川の一斉調査 身近な水環境の全国一斉調査

- **pH (水素イオン濃度)**：7が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。パックテストで測定。
- **EC (電気伝導度)**：水中の無機イオンの量。数値が高いと不純物が多いが、必ずしも不純物＝汚れというわけではない。伝導度計で測定。
- **COD (化学的酸素消費量)**：測定水に酸化剤を加えて有機物を酸化する時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物による汚れが多い。パックテストで測定。似た指標に **BOD (生物化学的酸素消費量)** があるが、これは微生物により分解されやすい有機物量を表す。
- **透視度**：透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。数人で測定し平均値を求める。

(天田 眞)

■ 2008年の主な測定結果と過去5年間(2004~2008)の平均値

測定項目 採水地点		水温 (℃)		pH		EC (μ S/cm)		COD (mgO/L)		透視度 (cm)	
		08 年	平均	08 年	平均	08 年	平均	08 年	平均	08 年	平均
柳 瀬 川	志木大橋	21.0	22.6	7.0	7.3	330	349.0	6	8.2	108.0	91.9
	栄 橋	20.5		7.5		330		6		108.0	
新河岸川 (上 流)	袋 橋	18.0	19.4	7.0	7.1	280	276.0	2	3.4	28.8	27.5
	いろは橋	19.0		7.0		270		4		35.4	
新河岸川 (下 流)	宮戸橋	20.0	20.8	7.0	7.3	310	318.0	4	6.4	56.1	45.2
荒 川	秋が瀬取水堰	20.0	19.8	7.5	7.8	177	179.6	2	2.0	39.9	56.7
こもれびのこみち湧水		17.0	17.2	6.5	6.6	230	231.4	0	1.2	122.0	119.2
赤野毛排水路		19.0	19.2	7.5	7.8	380	364.0	6	5.8	36.5	46.1

※ 各測定項目の右欄に過去5年間の平均値を記入しました。柳瀬川・新河岸川の合流点より上流の各2カ所は合わせた平均値としました。

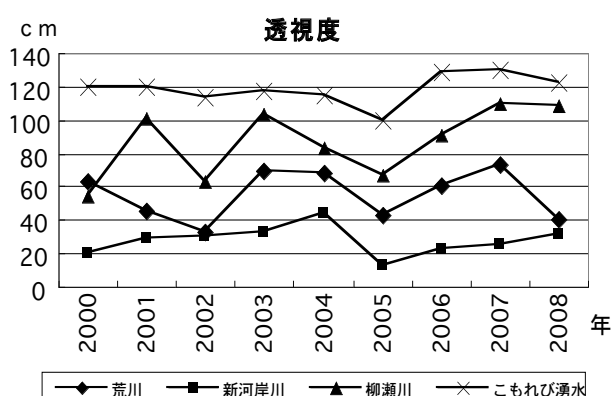
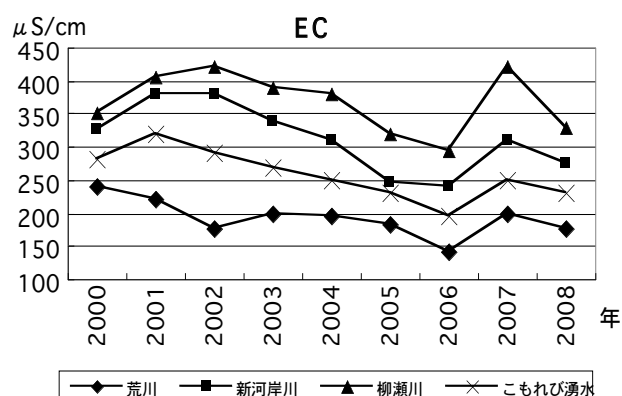
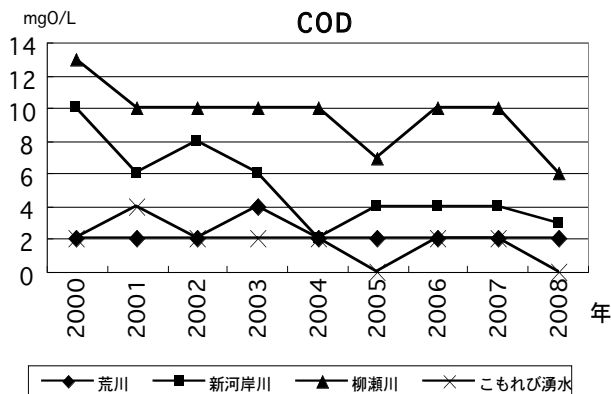
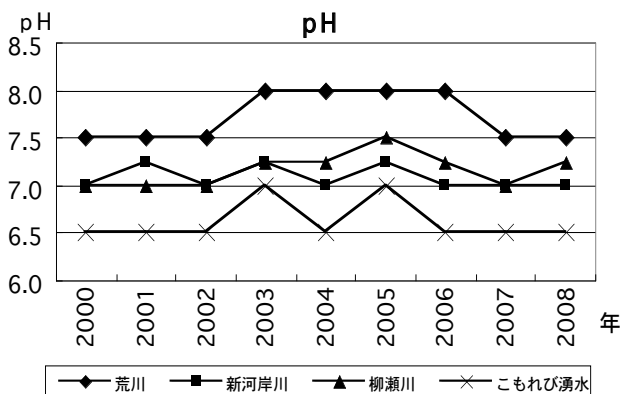
■ 過去5年間の結果から見る水質の特徴

柳瀬川 【志木大橋・栄橋】	透視度は非常に高いが、COD が最高、EC もかなり高く、見かけほど水質が良いとはいえない。水温が高いのは下水処理水の割合が高い(平常時6割以上)ため。河床は砂礫。流量は多く、流速は早く、低水路に砂礫の堆積が目立つが細かい沈殿物は少ない。
新河岸川(柳瀬川合流前) 【袋橋・いろは橋】	透視度は最低だが、COD、EC は柳瀬川より低く、見かけほど水質が悪いとはいえない。河床は泥質。柳瀬川に比べ流量は少なく、流速は遅い。潮の干満により水位が上下する観潮河川。砂泥やごみの堆積が多く河床掘削工事が続いていたが志木市域は終了した。
新河岸川【宮戸橋】	概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示す。
荒川 【秋が瀬取水堰上流側】	EC は最低、COD も非常に低く水質は良いが、透視度はそれほど高くない。わずかにアルカリ性。東京都・埼玉県の水道原水で利根川から導水された水が大半を占める。
こもれびのこみち湧水	透視度は最高、COD は最低で非常に水質が良い。EC がそれほど低くないこと、水温が低い(年間一定)こと、わずかに酸性気味なことは湧水の特徴。
赤野毛排水路	EC が最高で COD も高く水質は悪い。アルカリ性。平均では分からないが年により数値のばらつきが多い。雨水、農業排水、雑排水等、様々な水が混ざっていると思われる。

※ 埼玉県による **BOD** 測定の過去5年間(2002~2006)平均は、栄橋240、いろは橋276で、柳瀬川の方が良い結果になっている。

※

■ 河川と湧水の経年変化（柳瀬川は志木大橋と栄橋、新河岸川は袋橋といろは橋の平均値）



6/4
(水)

プールのヤゴ救出作戦

- 志木小学校 1年生138人 救出ヤゴ 2,391匹
- 志木第二小学校 2年生115人 救出ヤゴ 2,476匹

今年も学校プールの大掃除を前に、プールのヤゴを助け出す大作戦を実施しました。このヤゴを救い出してトンボにしてあげようというプログラムは当会の提案で志木市で始まってから11年目になります。3日に予定されていた志木小学校は天候が悪くて翌日に延期、4日に志木第二小学校と時間をずらしての同日実施となりました。最初に紙芝居でヤゴの生態を説明し



志木小でのヤゴ救出作戦の様子 写真＝山崎光久

た後、ヤゴの救出にかかります。

プールの底にたまった腐りかけた落ち葉やヘドロを網ですくうと、ヤゴが捕まります。最初はヤゴがつかめなかったこどもたちもいましたが、慣れるに従って手で掴めるようになりました。

生き物にじかに触れる機会が少なくなったこどもたちには貴重な体験です。志木小学校ではアキアカネのヤゴがほとんどでしたが、志木第二小学校ではギンヤンマの大きなヤゴも数多く捕れこどもたちは大喜びでした。

最後にヤゴへの餌のやり方、容器の水のやり方等飼育の仕方を説明して約40分の出前授業を終了しました。各自が持ち帰ったヤゴは6月中旬ごろにはトンボになりますが、何割ぐらいがトンボになれたのでしょうか。

6/25
(水)

小学校の授業へ協力

7/11
(金)

柳瀬川や水谷田んぼを利用した自然学習(総合的学習の時間)

6月25日 志木第三小学校

3年生4クラス107名 スタッフ5名

7月11日 志木小学校

5年生4クラス149名 スタッフ5名

柳瀬川の河川敷や隣接の水谷田んぼを利用した自然環境学習で、両校とも7年目になります。



学校により多少の違いはありますが、魚、川の流れ、河原の石、植物、昆虫、野鳥等の学習テーマを各自が選び、グループに分かれて観察や魚とりを体験しました。

特に人気があるのが魚とりで、水際に植物が生えているところに隠れているハゼやエビの仲間を網に追い込んで捕らえるのですが、人数が多いので一斉に川に入れる場所の確保や時間の配分に苦労しています。釣り人とトラブルにならないような配慮も必要です。両校とも児童数が多く平日のためスタッフの確保も課題で、ご協力いただける方を常時募集しています。

(天田 眞)

志木小の総合学習の様子

8/2
(土)

三芳町竹の子エコクラブ「柳瀬川へ行こう」

三芳町竹の子エコクラブは、平成19年度こどもエコクラブ全国フェスティバル(福岡県北九州市)の埼玉県代表として壁新聞選抜クラブにも選ばれていて活動がとても盛んな団体です。

この「柳瀬川へ行こう」では、この事業は川にすむ生き物を調べることで水質(水のごとの程度)を判定する調査「水生生物調査」、川の水の強い力を全身で感じるドキドキワクワクの「瀬渡り」、いつも大人気の手網を使った「お魚捕り」などの川と触れ合う自然体験をしていて、今回は約40名の子どもが参加しました。

今年はモクズガニ・ウナギ・マハゼなど東京湾から上がってきた江戸前の他に、とても珍しいギバチも捕れました。ギバチは絶滅危惧Ⅱ類(全国・埼玉県ともに)に指定されていて、エ

コシティ志木と埼玉県生態系保護協会志木支部で近年行っている志木の柳瀬川での魚類調査では初めての記録となりました。なお、捕ったお魚たちは終了後すみやかに川へ帰しました。



7/27
(日)

いろは親水公園斜面林

斜面林の手入れ&自然観察会

この活動は毎月第四日曜日の午前中に、志木市役所の所有になってからもほとんど手入れをされていない“いろは親水公園斜面林”を市民によって自然再生に近づけようという試みです。

今回が第1回目（6月は雨天中止）でしたが、エコシティ志木・埼玉県生態系保護協会志木支部5名の他、細田学園高校野鳥観察部4名（内・先生1名）、立教大学コミュニティ福祉学部1名（志木市社会福祉協議会「福祉学園」ボランティア体験事業）の参加がありました。

この日は、周辺のゴミ拾いや外来植物の抜き取りと自然観察などを行いました。手入れがされていないため、草むらの影にはたくさんのゴミが隠れていて、放置自転車3台などを拾い上げました。また、自然観察ではハグロトンボ・シオカラトンボ・オオシオカラトンボ・ギンヤンマ・ショウジョウトンボなどが見られました。

（伊藤智明）



8/3
(日)

志木まると博物館化計画・お宝情報マップ活用事業

お宝情報マップづくり

7月20日の第2回理事会の承認を経て、8月3日（日）に「お宝情報マップづくりワークショップ（参加者6名）」を行いました。そこで、マップの体裁、発行部数などを決定し、財団法人サイサン環境保全基金へ平成20年度下期分助成金に「志木まると博物館化計画・お宝情報マップ活用事業」として申請いたしました。

この事業は、私たちの会が活動する地域に豊富に残る水に関する自然と文化を地域の宝として親しみつつ次代に残す事を目的としています。

今までの活動で得た水に関わる自然や文化財に関する情報をワークショップにより厳選し、親しみやすい「お宝情報マップ」として作成し、このマップを小中学校での出前授業や「ぶらり散歩」事業、観察会等で無料配布します。

これによって情報の共有やさらに新しい情報の収集などをすすめて、日常的に身近なお宝に親しみ大切にする気持ちをふくらませ、そして志木まると博物館化計画の一環として新しい仲間とのネットワークが広がることを期待しています。（毛利将範）



↑ 下流側から見た秋ヶ瀬取水堰。一番左が普段水を流している調節ゲート、その右が増水時に開放される三連の洪水吐ゲート、右端に魚道がある。

荒川の秋ヶ瀬取水堰

NPO法人エコシティ志木代表理事

天田 眞

今から350年程前の1653（承応2）年、江戸の飲料水不足を解決するため、羽村で多摩川を堰止め江戸へ水を送る玉川上水が開削されました。以後300年以上の間、多摩川水系の水が江戸・東京の水需要の中心を賄ってきました。

玉川上水開削の翌年にはその水の3割を割く分水として野火止用水が開削されましたが、用水の流末は志木に至り新河岸川をいろは樋で渡って宗岡の水田灌漑に用いられました。

今、その宗岡から秋ヶ瀬取水堰で取水された水が東京へ送られ、東京の水道原水の中核を成す水となっています。

1. 秋ヶ瀬取水堰とは

荒川河口から35km上流の志木市宗岡に位置し、荒川を堰上げし東京都と埼玉県の水道用水、工業用水及び隅田川の浄化用水を取水しています。総取水量は約65m³/sで、堰脇の取水口から取水している東京都上水が約43%、隅田川の浄化用水が約36%、約5km上流で取水している埼玉県上水が約18%。堰の幅は127m、4ヵ所の可動式ゲートで構成され、魚道も設置されています。

2. 利水計画の概要

東京では戦後の経済復興に伴い水需要が急激に増え、1964年の東京オリンピックを前に水不足が深刻になってきました。

この問題を解決するために利根川水系の水を大規模に利用する計画が立てられ、62年に「利

根川水系水資源開発基本計画」が決定しました。

その概要は、利根川上流の群馬県内にダムを建設し渇水期のための水を確保する。行田市で利根川に「利根大堰」を建設し、そこで取水した利根川の水を「武蔵水路」（14.5km）を通し鴻巣市で荒川に放流する。宗岡で荒川に「秋ヶ瀬取水堰」を建設し、取水した

水を「朝霞水路」（2.1km）で朝霞浄水場（東京都水道局）等へ導水し利用するというものです。主要工事は62年に設立された水資源開発公団（現、独立行政法人水資源機構）が担当しました。

3. 秋ヶ瀬取水堰及び朝霞水路の工事

この導水工事全体の完成にはかなりの期間がかかりましたが、東京オリンピック開会までに深刻な水不足をとりあえず解消することが至上命令とされ、秋ヶ瀬取水堰と朝霞浄水場までの水路工事は突貫工事で行われました。

取水堰は荒川が浦和側に蛇行した部分を利用し、これをショートカットする位置に取水堰を設けることとしたため、本体工事は陸上で施行することができ、工期短縮が可能となりました。

取水堰脇の取水口から朝霞浄水場等に水を送

工事中の取水堰を左岸下流側上空より見る。
蛇行部分の陸上で施行されている。
参考文献(1)より



る朝霞水路は箱型コンクリートの暗渠水路で荒川堤防を樋管で横断し、新河岸川左岸に建設した沈砂池に至りますが、ここで一部を分岐させ隅田川の浄化用水を放流するため新河岸川へつなぎ(新宮戸橋下流側)、沈砂池を経た水は新河岸川の下を伏せ越し(逆サイフォン)でくぐり右岸の東京都の施設に繋げました。これらの工事はわずか11ヶ月の工期で64年8月に竣工し、オリンピックの開会1ヶ月前に通水開始されました。

この時点で取水されたのは荒川の水でしたが、一連の利根川からの導水工事はその後も続き、65年には一部完成した武蔵水路を経由し見沼代用水からの利根川の水を荒川に流す暫定通水を開始し、68年になって利根大堰及び武蔵水路が竣工し導水計画が完成しました。

しかし朝霞水路はその後の地盤沈下による損傷が激しく通水に支障をきたすようになったため、既存水路の上流側に新たな取水口と沈砂池までの水路(内法4.5m×4.5m×2連)が計画され81年に完成しました。

4. 取水堰と導水施設の現状

現在、朝霞水路の旧水路は荒川堤外部は撤去され、その上に堤防と取水堰をつなぐ管理橋が設置されています。堤内部分の旧水路は志木市が借り受け雨水調節池(内法3.5m×5.5m×2連×950m)として利用されています。

東京都の水道原水は新河岸川右岸から朝霞浄水場と板橋区にある三園浄水場へ送られ、朝霞浄水場からは東村山浄水場へも送られています。埼玉県の水道原水は秋ヶ瀬取水堰から約5km上流左岸の大久保浄水場近くで取水されています。

秋ヶ瀬取水堰の下流側には、水不足で河川水が不足する場合に下水処理水を浄化して補給する樋管があり、上流側には、さらに不足した場合に彩湖(荒川貯水池)の水を補給する樋管が

設けられています。

利根川からの導水については、見沼代用水西縁から利根川の水を荒川に送る暗渠水路も設けられています。武蔵水路は地盤沈下や老朽化により改築が検討されています。武蔵水路と荒川の合流点における水量比は季節により異なりますが2/3以上は武蔵水路の水(利根川の水)です。



堤防から取水堰を望む。左奥が取水口、中央奥が取水堰、右手前が堤防を横切る樋管、道路の下に水路が埋まっている。



左岸側に設けられた魚道。
本年度秋ヶ瀬取水堰の魚道を上った
稚アユの数(4月1日～5月15日)は過去8ヵ年で
最高の93万9千匹だった。

【参考文献】

- (1)『秋ヶ瀬取水堰朝霞水路工事誌』昭和42年 水資源開発公団利根導水路建設局
- (2)『朝霞水路改築事業工事誌』昭和57年 水資源開発公団朝霞水路建設所

7/15
(火)

オオブタクサ抜き取り作戦

志木中学校の生徒さん達による、ボランティア活動の「オオブタクサ抜き取り」は、1998年に始めて今年で11回目を迎えました。

オオブタクサは、1952年に静岡県清水港で最初に発見されてから、この50年で全国に急速に繁殖しました。

一年草ですが、4月に芽吹いてから8月には高さ3メートルにも達し、従来の植物を急速に駆逐してしまいます。さらに、オオブタクサは風媒花のため昆虫も寄らず、8月から9月にかけて大量の花粉を飛ばし、秋の花粉症の原因となっています。

また、最近は特定外来生物のアレチウリも柳瀬川に急速に繁茂し、在来の植物の生存を脅かしています。

気温30度を優に超える真夏日の午後、志木中学校の生徒さんたち約88名が参加し、富士見橋と柳瀬川鉄橋の間でオオブタクサとアレチ

ウリの抜き取りを行いました。オオブタクサは大きく成長し2～3人がかりでないと抜けないものもありました。暑い中汗を流した後、学校に帰りPTAの方たちが用意してくれた冷たい飲み物を飲んで一息つきました。生徒さん達にはこの活動をとおして、少しでも地域の自然を自分達の手で守る気持ちを持って貰えたらと願っております。（山崎光久）



7/20
(日)

お魚と遊ぼう ～夏、柳瀬川の魚を調べて楽しみました

主催＝エコシティ志木／生態系保護協会志木支部 協力＝志木市立教育サービスセンター

7月20日、晴れ時々曇りの良好な観察日和となり、参加者（小学生及び保護者）・スタッフ合わせて22名で、毎年恒例の「お魚と遊ぼう」～夏の柳瀬川の魚採り・観察を行ないました。この企画は、親子で柳瀬川を体験するプログラムですが、2000年から継続し実施しています。

魚は草が覆う浅瀬にいますので、対岸まで瀬渡りをします。水深は、大人の膝辺り、小さな子のふくらはぎ程度、早瀬の流速は1m弱程度あり、うっかりしていると転んで流されてしまう状況です。スタッフや保護者の方が斜め上流に向かってラインをつくり、そこを子ども達がつたっていくのですが、クールな体験を喜んでくれます。

みんなでゴソゴソの結果、次の生き物が取れ

ました。メダカ、モツゴ、タモロコ、ギンブナ、ウキゴリ、ヌマチチブ、ついでに金魚。その他にスジエビ、ヌマエビ、コオニヤンマ、ナミウズムシなど。（小島敏文）



生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html>

《鳥類》

ゴイサギ (営巣13カ所) →6/2 (月) 針ヶ谷の遊水地で
13個の巣があり、雛を育てていました【山崎光久】

バン (幼鳥1) →6/2 (月) 水谷たんぼ ここ2～3年
耕作されなくなった水田で雛がかえっています
【山崎光久】

カルガモ (雛7) →6/23 (月) 志木小屋上ビオトープ
で今年も7羽の雛が孵りました【山崎光久】

カルガモ →7/17 (木) レダリー前で雛を連れたカルガモに出会いました
【山崎光久】

カワウ (1) →7/17 (木) 市役所の前に今年孵ったと思われるカワウの幼鳥
がいました【山崎光久】

《蝉の声》

ミンミンゼミ →8/1 (金) 幸町1で【毛利将範】

ヒグラシ →8/10 (日) 幸町1で【毛利将範】

ツクツクボウシ →8/14 (木) 幸町1で【毛利将範】



ゴイサギの営巣6/2 (山崎)



バンの幼鳥6/2(山崎)



カルガモの親子 7/17 (山崎)



カワウの幼鳥7/17 (山崎)

環境 ひとくちメモ(10) 伊藤 智明

公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン

これまで行政側のみで人知れず進められてきた公共事業に対して、「なぜこの公共事業が必要なのか?」といった感情を抱くことが多かったように思います。そうした背景から、国土交通省は「公共事業の計画に関して国民の皆様の理解を得るためには、計画自体が適切であることはもちろんのこと、計画策定プロセスに対して透明性、客観性、合理性、公正性を確保していくことが重要」という観点からガイドラインを策定しました。

このガイドラインでは、構想段階における住民参画促進にあたって双方向コミュニケーションとなるように、次の4点に留意することがあげられています。

- ① 住民参画の進め方について早期に公表すること
- ② 計画策定者から積極的に情報提供を行うこと
- ③ 住民・関係者等に対し、適切な参画の機会と期間を確保すること
- ④ 住民・

関係者等からの意見・質疑等に対し、真摯に対応すること

今後は地方自治体でもこうした動きが広がっていくことに期待します。

▽国土交通省：政策・仕事：技術調査関係：技術管理：「公共事業の構想段階計画策定プロセス」
<http://www.mlit.go.jp/tec/kanri/process.html>



諫早湾干拓事業

☆会員状況

2008年度更新済み会員（8/25現在）

個人正会員 44

団体正会員 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2008年度分の継続
更新をよろしくお願
いします。

★宛名シールに会費
の有効期間が書いてありますので、
チェックしてください。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会

グループばんぼこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木おやこ劇場

志木市コミュニティー協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川流域川づくり連絡会（国土
交通省）

新河岸川流域川づくり懇談会（埼玉県）

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

志木市立郷土資料館の 農具 その4

アシブミダッコクキ



大正時代から昭和20年代までセンバに代わって使用されるようになった脱穀機である。大きさは多少異なるが、当館のものは、長さ65cm、幅68cm、高さ63cm程の本体に、U字状の鉄線を幾つも差し込んだ木製のドラムを取り付けたもので、ドラムを足踏み式のペダルを踏むことによって回転させ、このドラムのU字状の鉄線に稲や麦の穂をあて脱穀する仕組みである。このとき脱穀された粒が飛散しないよう、本体の前面にムシロを被せて使用した。



足踏み式脱穀機での麦
こき（鳩山町 昭和59
年）
『埼玉の民俗写真集』
（埼玉県 平成3年）
より

【執筆・撮影協力】

志木市立郷土資料館

〒353-0002中宗岡3-1-2 ☎ 048-471-0573 月曜日休館

志木市環境市民会議だより

前号でもお知らせしましたが、志木市では、1999年に策定された「環境基本計画」が10年経過したので現在改訂に向けて作業中です。

中心となって改訂作業を進めている「**志木市環境市民会議**（委員長：大滝孝久）」には、当会からも天田代表理事をはじめ5名の理事がメンバーとして参加しています。9月中に素案を作成し、環境審議会への答申、市民への公開・意見聴取というスケジュールで進行する予定です。

8月26日（火）に開催された環境市民会議「全体会」では、各部会からの中間案報告と意見交換がなされました。現段階では、各部会間での書式や文書のポリシー等がまだ統一されていませんが、今回の議論をふまえ、素案として修正される予定です。

計画の推進状況を計る物差しとなる数値目標については、その必要性は認識されましたが、数値化にあたりどの項目に焦点を当てるか、目標数値の妥当性などについてまだまだ調査・検討不足であると感じられました。とはいえ、数値目標は、計画を推進するにあたり市民で共有できる具体的な目標となるので重要であるということは、前計画の反省時にも確認されたことです。今後の計画推進とあわせて、時間をかけて議論し、調査・数値化していく作業が必要であると思います。

また、計画のわかりやすさ、より多くの市民が実践や議論に参加しやすい方法など、課題が残されています。

会員の皆さんが一市民として感じたこと、志木の環境に関して日頃思っているご意見ご提案などありましたら、是非メンバーあてにご意見をお寄せください。

(文責・毛利)

作業部会と当会のメンバー

A部会（自然との共生）	天田・山崎・毛利
B部会（循環型社会の形成）	古谷
C部会（快適な都市環境の創出）	山口

2008年度 第2回理事会報告

去る7月20日（日）、いろは遊学館において今年度第2回理事会を開催しました。出席及び書面表決した理事は、現在数11名のうち9名（天田、飯塚、伊藤、小島、古谷、毛利、山口）でした。

議事の結果概要は以下の通りです。

(1) 第1号議案『「こもれびのこみち斜面林の手入れ」を公園美化活動会制度（志木市新規事業）に参加及び実施について」賛成8、反対1で議決されました。この議決を受けて埼玉県生態系保護協会志木支部と共同で市と契約を結び、今後手入れ作業を行っていく予定です。

(2) 第2号議案 志木市民まつり（11月9日（日）志木市商工会主催）への参加について全会一致で議決されました。

(3) 第3号議案『お宝マップの助成金申請について』全会一致で了承されました。8月に助成金申請を済まし、9月の発表を待っています。

(4) 第4号議案「志木市環境基本計画（第2期）の策定状況並びに会員への報告について」今後の進行スケジュール等について、次号会報「エコシティ志木通信」に載せる事で、全会一致で了承されました。



毛利 将範

ツバメ



巣立ったヒナにエサを
与える親ツバメ

人家や駅の構内など、いつの頃からかツバメは人間の暮らしに寄り添って生きようになった野鳥です。人間のほうも「ツバメが巣を作る家は栄える」と言い伝え、ツバメを大事にしてきました。

それは農業と深い関係があります。スズメも確かに害虫となる虫をよく食べますが、どうしてもイネなどの穀物に群がる姿が印象に残ってしまいます。それに対してツバメは、虫しか食べません。田んぼや畑の上空を飛び回り、ウンカやヨコバイなどの害虫をせっせと食べてくれるその姿は人間にとってよほど頼もしい存在に見えることでしょう。春先にツバメが渡ってくると、母屋へ自由に出入りできるように少し隙間を作ったり、巣棚やフン用の受け棚を設けたりしてツバメを受け入れてきました。

実際、子育て期にはオスとメスで1日100～300回ぐらいヒナにエサを運ぶそうですので、その害虫駆除効果は大きいといえます。

ツバメにとっても、人間の住む家は、悪天候やカラスやヘビなどの外敵から身を守ってくれます。そして何より、水田や畑の近くにはエサとなる虫が豊富です。巣材の泥や枯れ草も調達しやすく、育ったヒナたちが南に旅立つまで集団で暮らす芦原や草原も備わっています。このような条件が重なって、ツバメは人間に最も近

い野鳥の一つとして共存してきました。

近年は次第に農地が減り、建物の構造も変化して、ツバメが棲みにくくなってきました。しかし、それでもまだ志木周辺には水田や畑、川辺の自然が存在し、結構多くのツバメが巣作りをしています。

特にヒナを狙うカラスの脅威から逃れるために、最近は巣が外から見えない構造になっている玄関の庇や、賑やかな場所を巣作りの場所として選んでいます。志木周辺では、柳瀬川駅の構内や、ぺあも～る商店街、交番の壁などでの利用例があります。

今はちょうど、巣立ったヒナや、親鳥たちが川や水田のそばの芦原や草原に集合し集団で生活しながら秋の旅立ちに備えている時期です。ツバメは1回に5～6個の卵を産み、2回子育てをしますが、そのヒナたちがインドシナ半島やニューギニアなどの越冬地から再び日本へ帰って来れる確率はわずか2%ほどだそうです。それは10つがいできやと2羽生存できるかどうかという数字です。

ツバメは基本的に毎年同じ場所に帰ってくるそうです。無事にたどり着いたときに安心して子育てできる日本の農の環境を、ツバメのために、そして人間のためにもいつまでも残したいですね。

編集後記

◇「ゲリラ雨」が各地で猛威をふるっています。◇志木には、平成・昭和・江戸時代の堤防や水塚、レンガ樋門など貴重な歴史的治水施設が存在しています◇これらは実際の治水機能に加えもう一つ「水を忘れないで備える」という地域の記憶を伝える重要な機能をもっています。今年の頻発するゲリラ雨でこのことを改

エコシティ志木通信

第51号・2008年9月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com